



ささりんどう

令和8年
1月8日
第8号

今年は午(うま)年！ 目標に向かって共に前進の年に！

新年明けましておめでとうございます。旧年中は地域、保護者の皆様には、本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

さて、昨日より3学期がスタートしました。子どもたちの元気な声が校舎に戻ってきました。一人一人が冬休みの間にしっかりとエネルギーを蓄え、気持ちを新たにやる気をもって新学期を迎えてくれたことが表情から伝わってきました。3学期は期間が短いですが、学年のまとめの学期であるとともに、進級・進学に向けた準備の期間でもあり、とても大切な学期です。始業式では、午年にちなみ、草原を仲間とともに力強く走り続ける馬のように、目標に向かって共に前進し、小さな一歩の積み重ねを大きな成長につなげようという話をしました。新しい一年が子どもたちにとって実り多き年となるよう、今年も教職員一同全力で取り組んでまいります。地域、保護者の皆様には、昨年同様、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。



ボランティアの皆様のご支援に感謝申し上げます！

葦高小学校には、登下校の見守りをはじめ、絵本の読み聞かせや、調理・裁縫等の家庭科実習補助、校外学習補助などで、ご支援くださるボランティアの方がたくさんいらっしゃいます。おかげさまで今年度も子どもたちが、安心して登下校したり、安全に学習に取り組んだりすることができています。お忙しい中、通学路に立ってくださったり、ご来校くださったりした皆様、本当にありがとうございます。



望ましい人間関係づくりを！～「自己有用感」を育む取り組み～

2学期の終業式に、冬休みに大切にしてほしいこととして、家族の一員としての役割を果たすことについて話しました。お手伝いや大掃除、おつかいなど、任された仕事を頑張った子どもたちは、家族や周りの人から感謝されてうれしく感じたことと思います。「自己有用感」とは、「人の役に立てた」、「人に喜んでもらえた」といった、人や集団の中で自分の存在が誰かの役に立っていると感じる気持ちで、自分に対する肯定的な評価です。相手の存在なしには生まれない感情であり、相手からの評価を感じて育っていきます。「自己有用感」を抱くことができれば、自分の行動に自信と誇りをもつことができ、自ら望ましい人間関係をつくり出すことができるといわれています。今学期も他者と進んで関わり、人の役に立つことができる場や機会をつくり、子どもたちの「自己有用感」を育てていきたいと思ひます。